

事業主体

早稲田大学 政治経済学術院 高橋恭子ゼミ

調査研究名

映像で記録する南相馬の過去と現在～大学生と小学生との協働を中心に

調査研究の概要

「メディアを主体的に読み解き、コミュニケーションを想像する能力を養う」手法を活用し、小学生と大学生が協働して映像による地域コンテンツを作成する。震災 9 年目の南相馬市において歴史あるものと新しいものが合体し、後世に伝える試みを子供・若者の視点で主体的に発見し、映像力を通じて発信できるよう支援した。

実施内容

5月	南相馬市立太田小学校と打ち合わせ。プロジェクト全体の流れを確認。
7月	太田小学校にて第1回ワークショップ「映像言語を学ぼう」を実施。 映像の特性について学びを深めた。
9月3日	第2回ワークショップ「テーマについて考えてみよう」を実施。4つの企画(菊池製作所、福島ロボットテストフィールド、松永牛乳、太田神社)を決定。
9月23日～26日	ゼミ生が市内で合宿をしながらプロジェクト継続。2日目、第3回ワークショップ「構成を考える」を実施。構成を確認すると同時に、撮影方法とメッセージの打ち出し方を学生が指導。3日目、第4回、第5回ワークショップを実施。小学生と大学生が協働し、4グループに分かれて撮影に当たった。4年生はこれとは別に「自立した地域の実現」「南相馬に移住した人」「南相馬での子育て」をテーマに市内で活動する方にインタビューや取材を実施。
12月9日	第5回ワークショップ「発表と評価」にて上映。小学生は映像を見て意図した表現ができているか点検した。
1月18日	早稲田大学でドキュメンタリー映画「Life 生きてゆく」の上映とトーク「福島を撮り続けること」を開催。映像ディレクターの笠井千晶氏を招聘。本調査研究の成果となる映像の上映は3月9日に南相馬市情報交流センターで予定していたが、コロナウイルス感染拡大の影響から中止になった。

調査研究期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日

南相馬市の課題

調査研究により

小学5,6年は震災当時、幼児であり、震災の記憶はない。放射能教育も含め、震災関連の情報に接する機会は県外の子供たちより多い。しかし、南相馬市民の一人として地域の被災、復興を考える機会は多くない。家庭や学校で、震災の記憶を風化させないようにすることが必要である。

という状況が判明し、南相馬市の課題が明確になった。

課題解決の提言

課題解決のためには、以下のような取り組みが必要とされる。

震災 9 年目の 2019 年度はテーマを設定し、歴史あるものと新しいものが合体し、後世に伝えようとする試みを、子供の視点で主体的に発見し、映像の力を通じて発信できるよう支援した。太田神社、松永牛乳、菊池製作所、ロボットテストフィールドを取り上げ、映像で発信した。これらのことから昨年に引き続き、以下を提言したい。

1. 子供が地域に誇りを持ち、未来に向かって自由闊達に生きるため、子供・若い人の声を全国に発信させる。
2. 地域の教育者、保護者、市民との連携に加え地域の枠組み、世代を超えた多様な人たちとの交流を促進する。